

インベントリ土壌調査法現地講習会報告

場所：森林総合研究所北海道支所構内

開催日：2009 年 9 月 30 日

概要

北海道地域の 2009 年度の調査を担当する株式会社クリタスを対象に、森林総合研究所北海道支所構内の実験林 7 林班い小班において、土壌調査法講習会を行った。受講生は 9 名、講師は森林総合研究所の 4 名であった。9 時に庁舎前に集合した後、講習会用に設定した仮想の試験地に移動した。林相は落葉広葉樹林で一部にギャップがあり、林床はクマイザサが覆っていた。最初に全員で試験地の中心杭付近に集まり、見取り図作成、炭素蓄積量調査と代表断面調査の場所の選定方法等について説明した。その後枯死木調査のラインの張り方と記載法、枯死木の分解度の分け方について説明した。分解度は各自サンプルを手にとって腐朽度合いを確認した。続いて代表断面調査法の説明を行った。ササの処理や根茎の密集する表層付近の掘削方法を実演した後、事前に作製しておいた代表断面を使用して断面の整形法を実演した。代表断面は講習の便宜のために正規の位置ではなく作業道脇に作製した。層位区分の方法を説明した後、講師による層位区分の解説に先だて、受講生のなかから代表 3 人が実際に層位区分を行い、区分の根拠を各自説明した。断面記載の方法を説明し、各自試料を手にとって土色、構造、土性等の判定法を実習した。深さ 10cm までの A1 層に粒状構造、20cm までの A2 層に堅果状構造が認められたことから、土壌型は BD(d)と判定した。最後に最表層と次層以下の土壌試料採取法を実演して代表断面調査法の説明を終えた。昼食後、2～3 人ずつ 4 班に分かれて堆積有機物量調査および土壌炭素蓄積量調査の実習を行った。断面の掘削や記載、堆積有機物の採取、土壌分析用試料と定体積用試料の採取を各自実習した。大礫が出現して円筒の採取が困難な地点があったためブロック採取を行い、他の班の受講生にもその地点でブロック採取法の説明を行った。講習終了後、講師が事前に作成した土壌調査位置見取り図と代表土壌断面調査票を参考として配布し、17 時 15 分に解散した。